

▽現場を大切に  
最近の研究会で、ある生産者の方から「うちの年間電気代は約二億円」

とのお話がありました。今、これでも生きることが許されていますが、自由競争突入の中、ランニングコストの削減が求められており、研究会はそのような問題を勉強する場

にしたいとの主旨でした。

飼料の大半を輸入し、鶏卵の約七〇〇を輸出しているオランダ養鶏は、この問題に世界中で最も真剣に取り組んでいると思えます。点灯後、数時間断水し、要求率の向上と汚卵の減少を図る、設備選定にあたっては、最も初

ことなく、常に導入後二ト力、品質には持続性が

ことなく、常に導入後二ト力、品質には持続性が

ことなく、常に導入後二ト力、品質には持続性が



## 現場を大切に、鶏糞発電の夢も

東洋システム株式会社  
代表取締役社長 安田 勝彦

低減に努力すると同時に、時代が求める養鶏経営の第二の利益、どこに鶏糞を二十四時間蒸気タービンで回す従来の火力発電方式です。鶏糞を各農場から集め、実験済み、土壌改良剤としての可能性あり)だけになり、鶏糞処理にかかる費用は半減し、臭いの公害から解放されます(エンジン内で約千度Cとなるため)。

外燃エンジン方式は、国の長期助成を受け、産学協同でプラント会社と二年前から取り組んでいます。内燃エンジン方式は、大手電機メーカーと取り組む予定です。レイヤー設備メーカーである弊社の原点を忘れず、夢として、世界に発信できる技術として、焦らずじっくり取り組んでいきたいと考えています。

に妥協しつつあります。販売は大切です。同時に生産(農場)は、それ以上に大切になりつつあります。トヨタの強さのファームコンピュータシ、約十年前から、鶏舎と排気を利用した鶏糞乾燥

ルトレージ、破卵率ゼロ  
▽鶏糞発電の夢  
宮崎県で、プロイラー電力の約半分を賄うこと

燃焼が容易で、その発電からは、タマゴと灰(添